

飛騨高山まちづくり本舗（高山市）

中心市街地

商店街活性化・子育て支援・まちづくり支援

取組の背景

近年、地域経済・社会の核である商店街は、空き店舗の増加等により、その魅力が低下してきているため、空き店舗の解消は緊急の課題となっている。他方、女性の社会進出による保育需要の増加、急速な高齢化による高齢者対応事業の必要性が高まっているものの、それらの整備が追いつかないことから、社会的な問題となっている。

このような背景を踏まえ、平成 14 年度に商店街のにぎわいの創出・活性化に併せ、地域の実情に応じた保育サービス等の提供の促進を図れるよう、中小企業庁と厚生労働省が連携し、コミュニティ施設活用商店街活性化事業（中小企業庁）と保育サービス事業（厚生労働省）を共同で活用できる指針を作成した。

高山市商店街振興組合連合会は、この指針を活用することで、商店街空き店舗を改装し市民と商店街で運営される「まちひとぷら座かんかこかん」を平成 15 年 3 月に開設した。

まちひとぷら座かんかこかんは、「こどもひろば」、「まちづくりひろば」、「情報広場」の 3 本柱で活動機能が構成されており、その中の「まちづくりひろば」の活動を具体的に進めていくための受け皿団体として「飛騨高山まちづくり本舗」を平成 16 年 4 月に設立した。どなたでも気軽に立ち寄っていただける「まちの縁側」として、市民と商店街によって運営されている。

なお、「かんかこかん」は、飛騨の地に根付き、祭りに欠かせない伝統芸能の鬮鶏楽の鐘の音色「カンカコカン」のように、人々に親しまれ、響きあう関係作りができる場所にしたいという思いから付けられている。



まちひとぷら座かんかこかん

取組の概要

（飛騨高山まちづくり本舗）

- 代表：河渡正暁（設立当初から代表就任）
- 副代表：伊藤早苗
- 活動内容：まちづくり通信の発行、りんくるりんみんなで納涼縁日、夏休み寺子屋かんかこかん、冬のあつたけ縁日、子どもまち探検等

（取り組み形態）

- ①自主事業：本舗が主体となっていく主催事業
- ②協働事業：他の団体と協働で行う事業
- ③後援事業：他の主体が行う事業に対して広報等の応援を行う事業

○活動経費：

- ・年会費（運営・事務局スタッフ、事業スタッフ：年 3,000 円）

取組の内容

（主な活動内容）

○「まちづくり通信」の発行

- ・まちの出来事、市民の働きをとらえて発信しており、まちと人をつなぐメディアとなっている。
- ・月 1 回、2,000 部程度作成。関連団体や市役所へはメールを活用し配布

○「地球のステージⅡ」（平成 16 年度）の開催

- ・「世界を感じ、世界とつながる」をテーマに子供たちの国際理解教育を深めるため、高山市出身桑山紀彦氏（精神科医）による公演を開催
- ・約 400 名の小中学生等が参加

○「地球のステージⅢ」（平成 17 年度）の開催

- ・高山市合併記念事業として、上宝地域、荘川地域、丹生川地域、朝日地域、一之宮地域、国府地域、高山地域の 7 地域で巡回公演を開催

○「りんくるりんみんなで納涼縁日」の開催

- ・商店街の賑わいを取り戻すための活性化イベント

- ・50余りの団体が参加し、2万人の来街者で好評

○「夏休み寺子屋かんかこかん」の開催

- ・小学生を対象とした手づくり講座
- ・紙、ガラス、布のクラフトに挑戦し、かんかこサポート隊のボランティアが協力

○「りんくるりん二十四日市」の開催

- ・雪の季節のにぎわいの風物詩
- ・お休み処、情報・PRコーナー、地産地消の職の輪を核としている

○「冬のあったか縁日」の開催

- ・子の居場所づくりをテーマに高山市と協働でフォーラムを開催。
- ・来場者は、約350人
- ・音楽サークル、保育士のグループ、ガールスカウトら70団体・個人が参加し、市役所の地下から三階までを合唱やクラフトコーナー、人形劇、展示など多彩な催しで盛り上げる

○「こころんネット1・2の3」の設置

- ・「気軽に集えるあったかいこころの居場所づくり」の実現を目指した子育てサークルや市民活動団体のネットワーク組織
- ・助産師との座談会、手づくりおやつ講習会、親子体操教室、食育に関するお話等の各種研修会を開催

市民と商店街で運営されるまちづくりセンターとして機能しており、「こころを育む」、「人と人との関係を育む」、「地域と人との関係を育む」を活動の柱として、まちなかの賑わいを取り戻すための仕掛け作りや様々な地域と人がつながる「場」づくりなどを協働で実施している。

成果

○まちづくり活動の発信基地として定着

まちづくり活動のための各種イベントの企画開催等により、市民・団体・行政等とのネットワークが確立され、市民主体のまちづくり活動としての発信基地として定着することができた。

成果の要因

○市民、団体、行政の連携した取り組み

商店街の衰退に対する危機感、地域への愛着等が要因となり、商店街のにぎわいを創出し活性化させたいという住民の意識が高揚したこと、さらには、各種団体が開催するまちづくり活動との連携や市民・商店街・行政が協働で各種イベントを開催することで、住民の町づくり意識が高揚したことが成功の要因と考えられる。

今後の課題

○組織体制の強化

運営経費の確保が困難であり専従スタッフを設置できない等、活動に支障をきたしているため、組織体制の強化が必要である。

○まちづくりコーディネーターの育成

更なるまちづくり活動を推進させるため、まちづくりをコーディネートできる人材の育成が必要である。

行政への期待

○活動への参加と理解

市の職員には、多くのイベント等に参加してもらっているが、県の職員にも参加してもらい活動の必要性を理解してもらいたい。

○運営費の補助

事務室の維持管理経費は商店街が負担しているため、運営費などの資金的援助をしてもらいたい。

この人にお話をうかがいました！

飛騨高山まちづくり本舗

代表 河渡正暁さん

副代表 伊藤早苗さん

調査日：平成18年11月16日（木）

調査者：飛騨振興局 梅本、飯島